

# 「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年12月

都道府県名	兵庫県		河川名	福田川						
事例タイトル	都市河川の高水敷におけるビオトープづくり									
写真										
水系名/河川名	福田川		場所	兵庫県神戸市垂水区						
位置情報 (緯度経度)	34.632602, 135.058291		活動開始年	2018年						
活動概要 (経緯・目的等)	<p>神戸市須磨区に源を発し、垂水区中心部を貫き大阪湾に注ぐ、全長約8キロの2級河川福田川は、他の一般的な河川と異なり、下流ほど水質が良い特性がある。これは、下流で川に流れこむ豊富なわき水のおかげである。この水を河口付近の高水敷上でコンクリートの境界石によってせき止めて、魚介類や鳥類が憩うビオトープを地元の有志が製作した。ビオトープには、葦が繁り、メダカやモズガコをはじめとする水生生物が住みついている。そして、流域住民の注目を集め、休日には網や観察道具を持った親子連れが訪れ、子どもたちの自然観察にも利用されるようになった。</p>									
再生の手法	簡易魚道		簡易水制 (巨石・ブロック)	○	バープ工 (上向き水制)		石倉かご・竹蛇籠		植生ロール・ポット	
	魚道改良		たまり・わんど造成		河床攪乱		その他 (記述)	ホースによる湧水の誘導		
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者 (国)		河川管理者 (都道府県)	○	河川管理者 (市町村)		河川管理者以外の地元自治体	
	大学・研究機関		学校 (小中高)		企業	○	その他 (記述)			
工夫した点	<p>ビオトープは高水敷のコンクリート上に構築しているが、観察者が水に濡れずに観察が行えるように、コンクリート製のスレートによる通路を製作した。また、川横の土管から絶え間なく流れ出ているわき水を、ビニールホースで分水して、ビオトープに引き込むようにした。ビニールホースは、多雨時には、管理メンバーが川横に引き上げて、流失を防ぐようにしている。</p> <p>当該箇所は福田川下流の汽水域に位置し、満潮時には海水に浸かり、大雨の際には濁流や上流からの草木に高水敷が覆われる厳しい環境である。当初、ビオトープの堰として30kgの境界石を用いたが、2018年夏のたび重なる大雨、台風で一部流失するに至った。そこで、弱点を65kgの境界石に置き換えた。</p>									
今後の課題	<p>ビオトープへの湧水の引き込みにはビニールホースを用いているが、大雨などで位置が変わり、水が引き込めない状態が度々発生しており、恒久的な引き込み水路の構築が望まれる。境界石については、大雨時の流失を避けるために、さらに30kgから65kgへの置換えが望まれる。</p> <p>また、ビオトープやそこに生息する生き物の様子の近隣住民への告知を拡充し、市民が守り育てる仕組み作りが望まれる。</p>									
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>福田川は、昭和の年代からのたび重なる過去の水害対策で2面コンクリート張りの市民の立入りが制限された河川となっており、流域住民の関心も薄かった。ビオトープ構築により、市民が憩える場所ができ、川への関心や愛着を深めるきっかけとなる。ひいては、ゴミ捨てなどのマナー向上が図られ、生き物にも優しい環境が作られるきっかけになると考えられる。</p>									
関連URL等	<a href="http://fukuda-river-cc.org">http://fukuda-river-cc.org</a>									